

平城宮の内側をのぞいてみると



第二次大極殿の遺構 「ダイコクの辻」
とよばれて土塁が残っていたため、明治以降、
大極殿跡と考えられてきました。ここに発掘
のメスが入ったのは、1978年のことです。

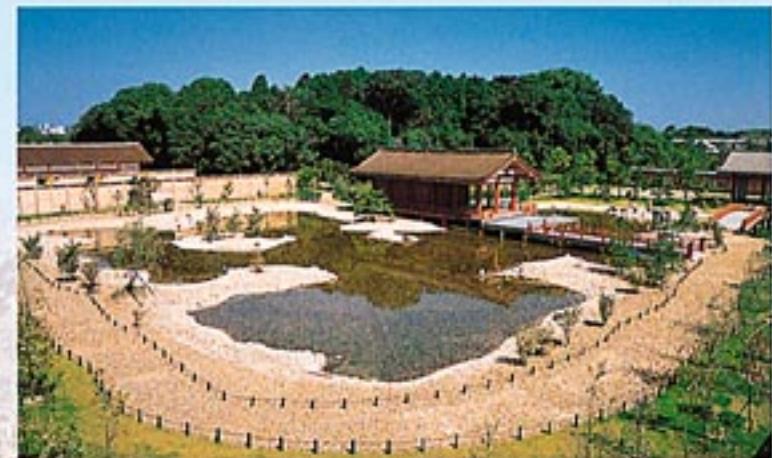


第二次大極殿と内裏の整備 第二次大極殿とその周辺にある礎石建物は基壇を復元、内裏の掘立柱建物は、円柱状に刈りあげたフグの植木で柱を表示しています。

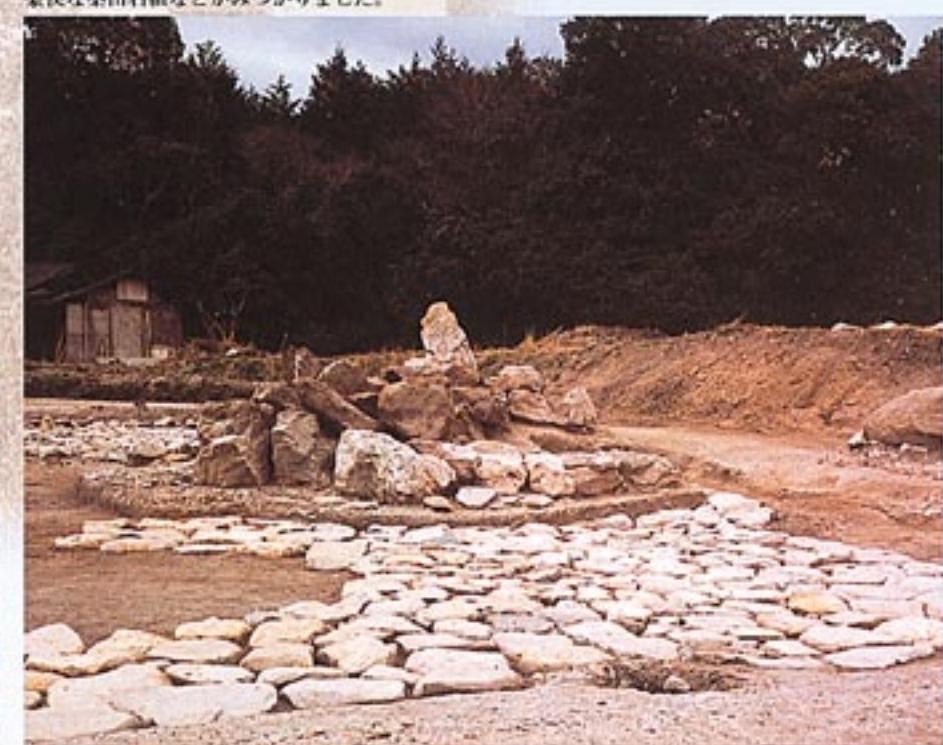


第一次大極殿院・東櫓の遺構 捩立柱と
礎石を混用する特異な建物跡で、柱穴も大き
く、櫓閣建築と考えています。平城宮最大の
柱（径約75cm）が出土しました。

兵部省の整備 武官人事を担当していた役
所。現代の道路が中央を横切っていますが、
建物の柱や壁を、約1mほど立ちあげる半立体復原という手法を用いて整備しました。



復原した東院庭園 天皇や貴族の宴
會の場を再現。建物は遺構にもとづいて
復原し、庭園は石組など遺構そのもの
を見せながら整備しています。



造酒司の井戸 天皇や役人のための
酒を造る役所にあった井戸で、その上
に六角形の上屋が建ちます。1つの柱
根と5つの柱穴がわかりますか？



平城宮略年表

694年(持統8)	藤原宮に都を移す。
701年(大宝1)	大宝律令を制定する。
707年(慶雲4)	元明天皇(女帝)が即位する。
708年(桓武1)	桓罔開拓を発行する。
710年(桓武3)	平城京に都を移す。
715年(雲龜1)	元正天皇(女帝)が即位する。
721年(神龜1)	聖武天皇が即位する。
729年(天平1)	長屋王の変。
740年(天平12)	藤原店舗の乱を機に崇仁宮に都を移す。
742年(天平14)	紫香楽宮をつくる。
744年(天平15)	難波宮を都とする。
745年(天平17)	紫香楽宮を都とする。
749年(天平勝宝1)	孝謙天皇(女帝)が即位する。
752年(天平勝宝4)	東大寺で天孫の開眼供養が行われる。
758年(天平寶字2)	崇仁天皇が即位する。
764年(天平寶字8)	藤原仲麻呂の乱。淳仁天皇に代わり孝謙上皇が 再び称帝天皇(女帝)として即位する。
770年(宝龜1)	天智天皇の孫の光明天皇が即位する。
781年(天心1)	刺武天皇が即位する。
784年(延喜3)	長岡京に都を移す。
810年(弘仁1)	平城上皇、平城遷都を計画するが失敗する(柔子の変)。
864年(貞觀6)	このころ、平城旧京の道路は田畠となる。



第一次大極殿院 1/100模型 大極殿は
天皇の即位、元日の朝賀など国家的儀式
のときに天皇の座がおかれれる建物です。
回廊で囲まれた正面には重刷の門門がひ
らき、その両側には東櫓・西櫓とよんで
いる櫓閣があったと考えています。臣下
はさらにその前にある広場に立ち並んで
天皇を拝したのです。

※本文中の色は、平城宮西隣寺跡から出土した銀製鏡先金具をモチーフとしたものです(縮尺約1/4)。